平成17年9月6日大水害

# あれから10年

>24<

## 教訓は生かせるか…

パネルディスカッション

「災害の教訓を生かす～自助・共助・公助～」

# いろんな防災情報を共有

## 教育機関と連携水防災教育も

【森川】「九州川標（しるべ）プロジェクト」ということで、いろんな看板を統一するなどの事業もやっています。

住民の方々の行動に資する情報としては、避難判断水位を設定したり、橋脚や堤防の階段に危険度レベルを表示しています。パソコンでも画像を見ることができ、QRコードもあるのでダウンロードしていただくとありがたいと思います。

平成21年5月からは携帯電話へ情報提供を開始しました。河川の水位、カメラの映像を配信しています。珍しい取り組みとして、浸水センサーという内水の状況が分かるものを設置しまして、これもパソコンでご覧になることが可能です。

インターネットとか携帯電話を利用されていない方でも状況が分かるように、一般の固定電話からも音声でデータを入手できます。もちろん今はスマートフォンでも情報はご覧になれます。

パソコンや携帯電話が使いづらい高齢の方には、NHKの地上デジタル放送で河川情報を配信しています。九州地方整備局が全国に先駆けて始めました。dボタンを押すと、お近くの河川の情報が入手できます。

防災マップ、いわゆるマイハザードマップ作りも進めています。流域の住民の方々が実際に避難経路をたどって、例えばここは水路があって危険だとか、そういう情報をマップの中に入れて、いろんな防災情報を皆さんで共有していただくという取り組みです。

教育機関と連携した水防災教育では特徴的な取り組みが2点あり、一つは総合学習ではなくて理科あるいは社会科の正式な授業の中で実施しているということです。

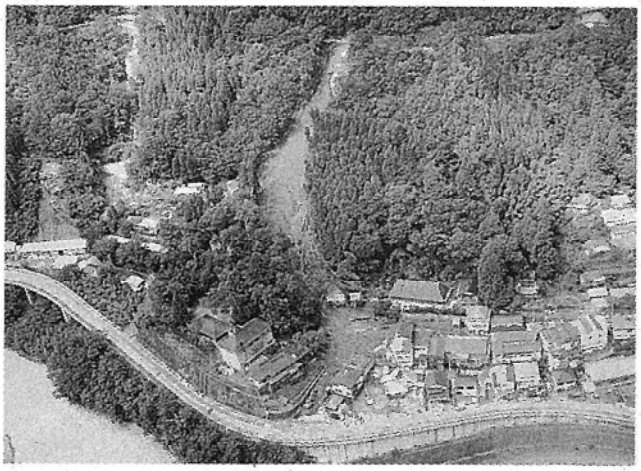
二つ目がゲストティーチャー、いわゆるわれわれが生徒さんに教えるのではなくて、担任の先生に勉強していただき、そういう授業をやっていただいています。九州管内の5事務所でこういう取り組みをやっています。

自治体の方々への支援としては、平成25年に宮崎県で起こった森林火災で陸上自衛隊のヘリコプターから画像を撮ってもらい、それを私どもの光ファイバーに乗せて、もう一回宮崎県に映像を配信しました。

画像はテレビのニュース等でもライブ配信されました。こういうふうな他機関と連携した防災情報も提供しています。

あるいはホットラインといって、携帯電話で地元の市長さん、町長さん方に事務所長から避難に関わる情報等を出す取り込みをしています。

熊本県の白川で平成24年に大災害があったときに、事務所長が熊本市長に対し、河川の水位がどういう状況であるかとか避難勧告等のご相談に乗ったり、いざ発災した後は、どういう資機材があるかとか、ポンプ車がこういう風に待機していますとかいう話を合計7回した事例があります。



椎葉村下福良の崖崩れ現場。関係機関の連携で、こうした上空からの画像情報なども提供される（平成17年9月7日）

### 防災・減災を考えるシンポジウムから―

コーディネーター
杉尾哲（宮崎大学名誉教授）

パネリスト
首藤正治（延岡市長）
図師雄一（宮崎県県土整備部長）
大塚法晴（元延岡河川国道事務所長）
森川幹夫（九州地方整備局河川部長）
猪狩信浩（NPO法人宮崎県防災士ネットワーク理事長）
福島宏一（元延岡市消防団長）
亀長馨（元北方町川水流区長）